

環境と健康

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

発行者

一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会

佐藤 均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511 番
振替口座01380-2-27511
URL <http://www.kanhokyo.or.jp/>

ご存じですか『ひろしまマイ・タイムライン』 災害時、いつ・どのように行動しますか



梅雨の季節です。皆さんは防災・減災に取り組んでいますか。個々の準備も大切ですが、地域で備える事も大事です。環保協と公衛協は、平成30年7月豪雨を受けて、公衆衛生活動に防災・減災という視点を追加し、共助井戸や災害ごみ、消毒などの取り組みを強化し、健康で住みよい地域づくりを目指しています。

皆さんは『ひろしまマイ・タイムライン』をご存じですか。広島県危機管理監が、風水害が発生する前の避難を呼びかけているもので、個人や家族、地域などであらかじめ避難に備え、「いつ・どのように行動するか」を決めておき、有事の際に迅速に行動できるようにするためのもので、いわば避難のスケジュール表です。

県のホームページで、デジタル・手書きに対応した書式の提供や、作成例が動画などを交えて紹介されています。ペットを飼っている方

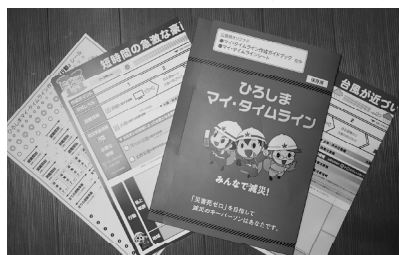
やマンションの高層階にお住まいの方などの作成例も掲載されています。

広島県のホームページ(上記QRコード)から説明動画や資料を確認し、我が家の『マイ・タイムライン』を作成してみましょう。

各家庭のタイムラインはもちろん、地域防災を考えるうえでも利用できるツールです。

高齢者や子どものいる家庭は、避難に時間がかかります。住んでいる地域の災害リスクを知り、いざという時、自分や家族、近隣の方々のいのちを守るよう、平時から防災・減災に取り組ましましょう。

(地域支援課)



市町によって、学校で配布される

海洋プラスチックごみによる環境汚染が世界的な問題となっている中、広島県においてもこの問題の課題解決に向けて実効的な対策を強化するため、海洋プラスチックごみゼロ宣言を行うとともに、宣言の実現に向けて企業・団体などを参画メンバーとするプ



ラットフォームを新たに設立しました。まず、6月23日の設立記者会見において、湯崎知事から「2050輝くGREEN SEA 瀬戸内海ひろしま宣言」を行いました。この宣言には、第5次広島県環境基本計画に掲げる「2050年までに新たに瀬戸内海に流出するプラスチックごみの量をゼロとする」ことを目指し、海洋生活分解性プラスチック等の開発・普及促進、プラス

チックに係る資源循環の促進及び多様な主体と協働した海岸清掃など、本県の宝である瀬戸内海の環境保全に向けた取り組みを、企業や関係府県・市町等と連携しながら、本県が先頭に立ち、推進していくことが明記されています。

併せて、宣言の実現に向けて、飲料メーカー等の製造業から小売・流通業まで、幅広い業種の企業・団体等を参画メンバーとする「GREEN

SEA 瀬戸内海ひろしま・プラットフォーム」を新たに設立しました。このプラットフォームでは、事業者等と連携して、プラスチックの使用量削減やプラスチックごみの流出防止などの具体的な対策を検討・実施してまいります。

今後は、プラットフォ

ームの参画団体を広く募集し、県民を巻き込んだ世論醸成を図っていくま

す。

海洋プラスチックごみ

海洋プラスチックごみゼロ宣言 県が新プラットフォームを設立

の多くは、日常の生活や事業活動に起因しており、このことを一人ひとりが理解し、ライフスタイルや事業活動を見直していくことが求められています。次世代へ、美しく恵み豊かな瀬戸内海を継承していくために、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

(広島県環境保全課)

《検討・実施する対策(4つのキーアクション)》

①プラスチックの使用量削減 ・ワンウェイプラスチックの削減や代替素材(海洋生分解性プラ・紙等)の開発・普及促進 ・プラスチック資源のリサイクルの拡大、高度化(食品トレー・PETボトル等)等	②プラスチックごみの流出防止 ・ペットボトル自動回収機の設置(コンビニ等) ・空容器ボックスの異物混入対策の検討、実証 ・デジタル技術の活用(ごみ箱センサー等) ・ナッジ(行動変容)を活用した啓発活動等
③プラスチックごみの清掃・回収 企業、清掃団体等と連携した効果的な清掃、回収等 	④情報の収集、発信、共有 ・各種イベントやHPでの情報発信(先行事例、プラットフォームでの取り組み、参画企業等の取り組み等) ・先進的な取り組みの研究、紹介 ・世論醸成に向けた方法の検討、実施 ・環境教育等

さんせんか 琴線歌

緊急事態宣言下の5月17日、平和記念公園で開催された東京2020五輪聖火セレモニーに参加させていただいた。新型コロナウイルスの急速な感染拡大の中、悩んだ末の参加だった。公道でのリレーは中止、トーチで聖火をつなぐ点火セレモニーとして行われた。

行政・検査機関、自粛要請を強いられる事業者は瀕死(ひんし)の状態にある。感染対策と社会活動の両立は容易ではない。感染で命を落とす方もいれば、困窮で命を絶つ方もいる。感染力の強い変異株が流行する中、社会活動を維持するためには、これまで以上の予防対策が求められる。ワクチンほどの効果はないが、一

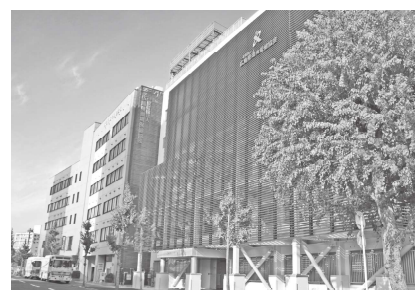
原爆と新型コロナと東京五輪

人ひとりの心がけで感染者数は確実に減少する。

た方々への供養になればと、聖火ランナーに応募した。1945年、長崎の医学生だった父は、実家のある広島への原爆投下の悲報を聞き、列車で広島に向った矢先に長崎で被爆した。祖父や父の学友が命を絶やす中、九死に一生を得た父の命を受け継ぐことができた。今コロナ禍にあつて、五輪や聖火リレーの開催に世論は揺れている。感染症対応に追われる医療・

る。感染したことに罪はないが、日常生活には責任がある▼原爆も新型コロナウイルスも同じ「命」の問題である。聖火を受け継ぐ時は「命をありがと」「渡す時は「命をよろしくお願ひします」と祈った。新型コロナウイルスの流行を抑え、五輪・パラリンピックが無事開催されることを願っている。一人ひとりができることはまだある。

麻布大学客員教授 野田衛



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~

広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 【大代表】 FAX:082(293)1520

かんぽきよう

検索

基本理念

~みんなの生命(いのち)をまもりたい~

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。

